

都市医師会長プロフィール

札幌市医師会

松家 治道 先生



平成25年3月に行われた第114回札幌市医師会定時代議員会において、山光進前会長の後任として、松家治道先生が新しい会長に就任されましたのでご紹介いたします。

松家先生は昭和22年生まれの66歳。昭和47年に北海道大学医学部を卒業され、北海道大学病院第一内科に入局。主に大学で勤務されたあと、昭和52年より松家内科小児科医院に勤務。平成11年より同院院長となられ、現在に至ります。

札幌市医師会では、平成9年4月に理事に就任し、6期12年にわたり理事を務めたあと、平成21年からは副会長として活躍され、平成25年会長に就任されました。

理事時代には地域医療福祉部長、財務経理部長、会館部長、介護保険担当部長、総務部長などを歴任され、平成17年からは常務理事、平成19年からは平成24年3月の閉校まで札幌市医師会看護専門学校校長を務められました。

理事になられた経緯をお聞きしたところ「当時(現在でも)、札幌市医師会中央区東支部では五十嵐有光前支部長が支部総務部長で、すべてを仕切っておられ、五十嵐先生はそのまま支部に残り、札幌外科記念病院の山本直也先生が道医へ、私は上埜先生を支えるために札幌理事になりました。当初、今の若い先生と同じようにマスコミの適当な報道に感化され、医師会には欲張り村の村長さんが多いのではと思っていました。ところが、支部役員となり医師会の委員会に出てみると、役員の方たちはみんな、真摯に医師会および市民のために働いておられ、少し感動したのがすべての誤り(?)の元でした」とのお話でした。最後はもちろん先生一流のジョークで、先日の懇親会でご一緒させていただいた際、学生時代はスキーをされていたそうですが、現在のご趣味は何でしょうか、とお聞きしたところ、間髪いれず「今の趣味は医師会だけです」とお答えになられていました。

松家先生とは今年の3月まで、医療政策部と一緒に活動を行っていました。先生は一般にはほとんど知られていないような話題についても、その歴史的な背景から現状に至るまで細かく記憶されており、

その見識の深さにはいつも驚かされていました。また、理事会で意見が分かれるなどして場の雰囲気が悪くなった時にも、先生の的確な発言のおかげで議事がスムーズに進行し、新人理事の私にとってはとてもありがたく感じていました。会長になられますと、これまで以上に忙しくなると思いますが、健康にご留意され、ますますのご活躍を祈念しご紹介とさせていただきます。

北海道医報通信員

札幌市医師会理事 加藤 文博



千歳医師会

佐藤 貢 先生



千歳医師会の新しい会長に、本年4月から前会長である尾谷透先生よりバトンを受け、佐藤貢先生が就任されましたのでご紹介いたします。

先生は馬産地で知られる日高の新冠町出身です。昭和54年に札幌医科大学を卒業後、直ちに勤医協中央病院で整形外科を研修。その後東京大学、関東労災病院などで研さんされ、昭和62年4月、千歳市に19床の佐藤整形外科医院を開業されております。専門の膝関節鏡を多数行っておりましたが、平成14年4月に無床化し、現在は外来診療とりハビリに専念されております。

学生時代は（ご本人によりますと）勉学よりも空手に熱中され、札幌大空手道部主将として全道学生大会団体戦を制覇した輝かしい経験をお持ちです。空手道への情熱は卒業後も衰えず、空手道部のOB活動に加え、現在は地元の少年空手道連盟の会長およびドクターとして支援されております。

整形外科医としてスポーツ医学を専門とされ、自らフルマラソンや85kmクロスカントリーを走破し、その経験に基づくアドバイスを選手に指導しておられます。しかし、近年はご多忙でもあり、軽い運動での体力維持に努められているとのことでした。

先生は12年間千歳医師会理事として献身的な活動をしておられました。さらに若手の開業医親睦の場である「百合の根会」を主催されており、周囲の信頼も絶大です。就任に際し、当地域の懸案である夜間休日救急医療の充実、介護保険の支援、病診連携のシステム化、医師会館建設など、多くの課題を約100名の会員の総力を結集して一歩ずつ前進させたいとの抱負を語っておられます。

先生におかれましては会長の職に就かれ、ますますご多忙のことと思いますが、今年創立50周年を迎える千歳医師会をリードし発展させていただけるものと期待申し上げます。

北海道医報通信員
千歳医師会理事 木田 雅也

夕張市医師会

中條 俊博 先生



平成25年5月29日に開催された夕張市医師会総会において、中條俊博先生が第六代目の会長に就任されましたのでご紹介いたします。

中條先生は昭和34年生まれで生粋の夕張っ子であります。そして初の戦後生まれの会長となります。昭和61年に杏林大学医学部をご卒業後、札幌医大泌尿器科に研修、福島県会津若松市の総合会津中央病院で内科および消化器科を研さんされ、阪神淡路大震災の年である平成7年に開業医であるご両親の強い希望もあり、夕張に戻られご両親とともに診療に当たられてきました。

先生が戻られた夕張。そこにはかつての姿はなく、多くの空き家と高齢者が残されている現状に驚かされたといっています。

現在は養護老人ホーム、身体障害者授産施設、グループホームなどの診療も行うほか、警察医としても実働され、市内の検案の実に7割を一人で担当されております。

医師会活動としては、学校医担当理事、介護保険担当理事、医事紛争処理委員、議長、そして平成15年から副会長として当医師会を支えてこられました。

またご承知のように、夕張市は平成19年から財政再建団体となりました。夕張市財政の破綻後、市立病院から指定管理者による診療所への縮小移行、救急病院の返上などにより、地域医療まで破綻されたがごとくさまざまな報道がされてきましたが、市内には夕張市医師会構成の民間医療機関が各地域（4ヵ所）にバランスよく保たれ、救急を含め夜間診療・日曜当番を維持してきました。

夕張市においては、市立診療所の建替議論など、問題は山積みしていますが、北海道医師会ならびに会員の皆さまのご協力もいただきながら、新会長のもと医師会の結束を固めて地域医療の安定提供ができることを願い、中條会長のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

北海道医報通信員
夕張市医師会理事 立花 康人

富良野医師会

石澤 秀明 先生



14年間にわたって富良野医師会会長を務めた高橋尚志前会長を引き継ぎ、平成25年4月に石澤秀明先生が新医師会長として就任されました。

先生は小樽の出身で、札幌南高校を経て、昭和55年に北海道大学を卒業し、札幌医科大学神経精神科に入局されました。昭和62年から平成元年まで、National Institute on Alcohol Abuse and Alcoholism(NIAAA)にVisiting Fellowとして留学されています。現職の「北の峰病院」には平成2年から勤められ、平成4年から平成21年までは病院長として、現在は社会医療法人博友会副理事長・北の峰病院名誉院長として活躍されています。

医師会活動としては、平成11年から21年まで富良野医師会副会長・富良野地区介護認定審査会会長を務められ、前任の高橋会長の右腕として活躍されました。また、趣味として読書やプロ級の麻雀に加えて、数年前からはジム通いやサックスの練習を始めており、昨年の医師会新年会では見事にサックスを演奏し、聴衆の喝采を浴びました。

これからは前会長の方針を引き継ぎ、「富良野協会病院に集約された一次救急医療体制（富良野方式）の継続」「一次救急体制の維持と不可分の問題である、圏域内での医師確保」を目標とするということです。さらに独自色として、「医師会員の連携強化のためにITを利用する」ということで、早速4月からは医師会メーリングリストを介して医師会情報・医療情報が毎日のように届くようになり、会員同士の素早い情報の共有化・連絡ができるようになりました。これからもいろいろなアイデアが出てくるのではないかと楽しみにしています。

医療情勢は、これからも大変な状態が続くと思われます。先生におかれましては、なにとぞ健康に留意され、新医師会長として存分に腕を振るっていただけますようお願い致します。

北海道医報通信員
富良野医師会理事 白田 克美

北海道大学医師会

寶金 清博 先生



北海道大学医師会会長に、新しく寶金清博先生が本年4月1日より就任されましたので、ご紹介いたします。

先生は昭和54年に北海道大学医学部を卒業され（北大55期）、直ちに北海道大学脳神経外科に入局されました。昭和61年には米国カリフォルニア大学デービス校客員研究員、平成8年には文部省在外研究員として米国スタンフォード大学および英国国立神経研究所に留学しておられます。平成13年に札幌医科大学脳神経外科教授に就任され、副病院長（医療安全管理部長）も4年間勤められました。平成22年に現在の北海道大学医学研究科脳神経外科教授に就任されました。翌年に副病院長を経験された後、今年度から北海道大学病院長の要職に就任しておられます。

ご専門は脳血管障害、特にもやもや病の病態解析では優れた研究業績があり、最近では最先端の骨髄幹細胞を利用した再生医療に関する先駆的研究を担当しておられます。常に前向きの視点で、脳神経外科学はもちろん、広く脳神経領域や再生医療についての先駆的な研究に従事しておられます。

複数の研究機関や医育機関での経験を生かして、アカデミズムに立脚した人材育成についての幅広いビジョンを有しておられます。北大病院では、現在種々の高度診療が実施されており、これらを活かした臨床研究中核病院としての役割を演じるべく、病院の改革を推進する姿勢を示しておられます。特に人に優しく社会に信頼される病院であるとともに、先端医療を世界に発信できるような病院となるべく、種々の創意工夫を思案しておられます。

先生におかれましては、ますますご多忙になることと思いますが、どうぞ魅力ある北海道大学病院を構築するとともに、北海道の先端医療および優れた医療人育成にも貢献していただきたいと願っています。

北海道医報通信員
北海道大学大学院医学研究科 玉木 長良

2013年4月1日、
医師年金が
生まれ変わりました!

日本医師会

医師年金

ご加入のおすすめ

医師年金は、従前の「無認可共済」から、
保険業法に基づく「認可特定保険業」に生まれ変わり、
より安全・安心な制度になりました。

特色

1. 医師年金は積立型の私的年金です。
現役世代が高齢者を支える公的年金とは異なります。
2. ご希望の年金額を受けるため保険料を自由に設定・変更できます。
3. 通常65歳からの年金の受取開始を75歳まで延長できます。
4. 年金受取は、終身年金、確定年金など4コースのなかから、
受取開始時に選択できます。
5. 医療機関を法人化した場合でも加入を継続することができます。
6. 事務手数料が少額なので、保険料が効果的に積み立てられます。

加入 資格

64歳6カ月未満の日本医師会会員（会員種別は問いません）

ホームページで簡単シミュレーション!

<http://www.med.or.jp/nenkin/>

ご希望の受給額や保険料、生年月日を入力するだけで簡単にシミュレーションができます。お試し下さい。

個別プランの設計や詳しい資料のご請求は……

 公益社団法人日本医師会 年金・税制課

TEL 03-3946-2121(代表) / 03-3942-6487(直通)

FAX 03-3942-6503

受付時間：午前9時30分～午後5時(平日)

E-mail nenkin@po.med.or.jp

